

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第188号
令和4年度第5号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切に、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

放送

兵庫県・関西地方で復興テレビ番組を放送 「岩手と兵庫の絆 ～大震災から復興へ～」

兵庫県・関西地方
HYOGO・KANSAI REGION

令和5年1月29日(日)、兵庫県を始めとする関西地方で、復興テレビ番組「岩手と兵庫の絆 ～大震災から復興へ～」が放送されました。

この番組は、東日本大震災津波から間もなく12年を迎えるに当たり、発災直後から多くの応援職員を派遣いただいた関西地方の各自治体との絆や、様々な支援への感謝、岩手県の復興の今や三陸の多彩な魅力を広く発信することを目的に岩手県が企画しました。

番組には、兵庫県出身のお笑いタレントで阪神・淡路大震災で自らも被災した経験をお持ちの石田靖さん、タレントで盛岡市出身の山川恵里佳さんが出演するとともに、金ヶ崎町出身で声優の桑島法子さんがナレーションを担当し、宮古市浄土ヶ浜の新遊覧船「宮古うみねこ丸」や被災から復興した大船渡市の養殖ホタテ、宮古市田老地区で震災後も営業を続ける老舗菓子店など、岩手三陸の魅力をロケ映像で紹介しました。

また、震災津波で大きな被害を受けた釜石市鶴住居地区では、同市出身で中学3年生の時に被災し、現在は震災の語り部やガイドとして活動する菊池のどかさんが、未来の人たちへ自らの経験や避難の大切さを語り継ぐことへの熱い想いを語ったほか、旅館・宝来館の女将・岩崎昭子さんが、ラグビーの街として全国へ名を轟かせた釜石の復興の希望の光となった「ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石」開催と、「釜石鶴住居復興スタジアム」の整備を始め官民一体となって取り組んだ誘致活動の様子を紹介しました。

さらに、岩手と兵庫のつながりとして、令和4年10月に神戸市で開催された「第7回防災推進国民大会2022in兵庫」における復興支援の感謝を伝える岩手県のブースや三陸地域を「防災を学習する場」として発信するトークセッションの様子を紹介するとともに、被災者の心の復興を願い、毎年被災地を訪問しているスーパーキッズ・オーケストラについて、世界的指揮者の佐渡裕さんから、音楽による交流を通じた犠牲者への鎮魂と取組への想いをお話いただきました。

東日本大震災津波伝承館では、解説員の案内により、当時のまま展示されている津波で破壊された被災物のほか、震災津波の事実と教訓や発災当時から現在までの復旧・復興の記録を始め、阪神・淡路大震災の経験や教訓の展示も紹介し、自然災害へ備えることの大切さを発信しました。

番組を契機に、兵庫県・関西地方の方々の防災意識の向上や更なる交流につながることが期待されます。

3月には、岩手県内でも番組が放送される予定ですので、是非ご覧ください。

兵庫県出身の石田靖と、岩手県出身の山川恵里佳が、東日本大震災津波の事実と教訓を風化させないため、そしてこれからのまちづくりや防災を考えていくため、岩手三陸のいまをお伝えします。



岩手と兵庫の絆 ～大震災から復興へ～(写真提供:株式会社サンテレビジョン)

学習

赤崎小学校で震災講話

大船渡市
OFUNATO

震災講話の様子(写真提供:大船渡市)

令和4年11月22日(火)、大船渡市立赤崎小学校の6年生25人が、防災学習の一環で、東日本大震災津波に関する講話を聴講しました。講話では、同市内で印刷・撮影業を営む村田友裕さんが講師となり、発災後に自宅近くの高台で撮影した津波で流される住宅や車の写真やビデオ映像を紹介しながら、自然災害の恐ろしさを訴えました。児童たちは、津波の破壊力と災害から自分の命を守ることの大切さを学ぶとともに、震災前と震災後の空撮映像を比較し、自分の住む故郷がどのように復興してきたかについても確認しました。

小学校6年生は、震災当時は生まれて間もなく、震災の記憶はありませんが、講話を聴講した児童たちは、「授業で習ってはいたが、実際に津波の写真や映像を見ると怖さを感じた。津波が来たら、すぐに高台へ逃げたい」と誓っていました。

■問い合わせ 大船渡市立赤崎小学校
☎0192-26-3625

実験

宮古・下閉伊の道の駅が
首都圏へ商品混載実験宮古市
山田町
岩泉町
田野畑村

岩手県では、宮古・下閉伊地域の道の駅と連携し、商品をトラックに混載して首都圏に輸送する「低コスト物流構築事業」の実証実験に取り組んでいます。

令和4年11月26日(土)、4市町村の6箇所の道の駅(みやこ、やまびこ館、たろう、やまだ、いわいずみ、たのはた)をトラックが回って19事業者の64商品を集荷し、東京のアンテナショップ「いわて銀河プラザ」で開催した物産展に送り出しました。

当日、宮古市田老の道の駅たろうでは、県オリジナル品種のリンゴ「大夢」や市立田老第一中学校の生徒が作った塩蔵ワカメ、冷凍の塩ウニなど多彩な商品を積み込みました。

今後も実証実験を重ねながら、事業者が個別輸送するよりも輸送コストを低減するとともに、新たな販路開拓を図ることで、三陸沿岸道路などの新たな交通ネットワークを活用した三陸の産業振興を推進していきます。

■問い合わせ 沿岸広域振興局宮古地域振興センター
☎0193-64-2217(内線219)



宮古市の道の駅たろうで特産品の積み込みを行う様子

世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

東日本大震災津波伝承館では、令和4年12月10日(土)から令和5年1月9日(月・祝)まで、令和4年度第3回企画展示「岩手県の避難所—東日本大震災津波から見えてきたこと—」を開催しました。

東日本大震災津波では、浸水範囲が広く、津波による家屋流出や住宅火災も甚大であったため、多くの住民が避難を余儀なくされました。また、想定以上の避難者が発生したことにより、避難者の実態把握が困難となりました。今回の企画展示では、東日本大震災津波当時の岩手県内の避難所の状況と推移を確認するとともに、そこから見えてきた次の災害に備えた避難所の課題と教訓、新たな避難所のあり方を紹介しました。

期間中には、避難所で使用するグッズを実際に体験するイベント「避難所グッズたいけん!」を開催し、参加者は、段ボール製のベッドやトイレの組立て、防災リュックの準備等を体験しながら、自然災害に対する日頃の備えの重要性を改めて確認しました。

東日本大震災津波伝承館では、今後も様々な企画展示や関連イベントを通じて、東日本大震災津波の事実と教訓を多くの方々と共有しながら、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館 ☎0192-47-4455



企画展示の様子



企画展示関連イベントの様子

学習

高田高校生徒が 母校の小学校で防災授業

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

令和4年12月5日(月)、県立高田高校の2年生で、防災マイスターの活動に取り組む小野寺麻緒さんが、母校の陸前高田市立高田小学校の1年生を対象に防災をテーマとした授業を行いました。授業は、幼い子どもが使う防災リュックの中身を一緒に考える内容で、児童たちは、衣類や消毒液、ラジオ、ヘルメットなど、リュックに入れる防災グッズを話し合いながら、自分の命を守るための備える大切さについて学びました。

5歳の時に東日本大震災津波を経験した小野寺さんは、中学1年生で同市の「防災マイスター」養成講座を受講してマイスター資格を取得し、高校入学後は、総合的な探究の時間を中心とした探究活動「T×ACTION(タクシオン)」で防災リュックの活動を進めてきました。

震災を知らない子どもたちが増えていく中、小野寺さんは、災害の怖さだけでなく備えることの大切さを伝えながら、子どもたちの防災意識を高める活動に力を注ぐこととしています。



防災授業の様子

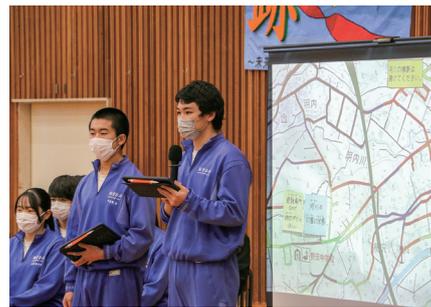
■問い合わせ 岩手県立高田高等学校
☎0192-55-3153

発表

野田中学校生徒が 命を守る「逃げ地図」作成

野田村
NODA

令和4年12月11日(日)、野田村立野田中学校の3年生32人が、同校で保護者や地域ボランティアに向けて、避難場所への経路や高齢者の歩く速さを基とした所要時間などを可視化した「逃げ地図」の発表会を開催しました。

生徒たちが「逃げ地図」を発表する様子
(写真提供:野田村)

逃げ地図は、県による最大クラスの津波が到達した場合の浸水・被害想定公表などを受け、同年7月から作成してきたものであり、生徒たちは、村中心部でのフィールドワークを通じて各避難場所までの道路状況や危険箇所などを調査し、拡大した村の防災マップに避難時の注意点などを表示しました。

発表会では、作成した地図をモニターに映しながら、「河川の氾濫に注意」「道が細いので車が渋滞する可能性がある」など、フィールドワークで見つけた課題を発表しました。

命を守る行動につなげるため、生徒たちは、今後も迅速な避難の重要性を発信していくこととしています。

■問い合わせ 野田村立野田中学校
☎0194-78-2170



さんりくイベント情報

青森県/岩手県/宮城県/福島県/東京都
4 prefectures in Tohoku / TOKYO

東日本大震災風化防止イベント～さらなる復興に向けて 2023～

東日本大震災津波の風化防止や支援継続を呼び掛け、復興支援への感謝を発信するため、東北4県(青森県、岩手県、宮城県、福島県)と東京都は、「想いをつむぎ、未来へつなぐ。」をキャッチフレーズに「東日本大震災風化防止イベント～さらなる復興に向けて 2023～」を開催します。

●問い合わせ 東日本大震災風化防止イベント事務局 ☎024-973-7481

オンラインイベント

「被災地の今」と「東北の魅力」を発信する特設サイトを開設



主なコンテンツ

- 4県知事、都知事からのメッセージ動画
- 東北ゆかりの著名人(プロスケート選手 羽生結弦さん)からのメッセージ動画
- 語り部団体や震災伝承施設の紹介など

開催期間

令和5年1月26日(木)から
3月19日(日)まで

オフラインイベント

復興支援への感謝・応援メッセージボードの掲出、復興に関するパネル展示や映像放映、VR視聴体験、東北4県の特産品やご当地スイーツ(日時限定)の販売により、風化防止や被災地支援の継続を呼びかけます。

会場

汐留シオサイト地下通路
(東京都港区東新橋1-5-25)

開催期間

令和5年3月5日(日)11時から
3月11日(土)19時まで

Instagram

ハッシュタグキャンペーン

東北4県の食材やご当地料理、名産品などを食べたり料理をしたら、#東北チャージメシ2023を付けて、写真を

Instagramに投稿しましょう!!
投稿いただいたフォロワーの方から抽選で100名様に東北4県の県産品や特産品をプレゼントします!
東北の“おいしい”“いいね”を全国にシェアしましょう。

参加方法

- 1 ▶ 東日本大震災風化防止イベントのInstagram公式アカウント(@tohoku.fukkou.ouen)をフォロー
- 2 ▶ #東北チャージメシ2023を付けて、東北4県の食材や、それらを使った料理写真など投稿 ※「#」は半角です。

賞品

抽選で100名様に東北4県の県産品や特産品をプレゼントします。

開催期間

令和5年2月10日(金)から
3月11日(土)まで



イコウエルすみた (ICOWELL SUMITA)

仮設住宅跡地に整備した「仕事と学び複合施設」



住田町が世田米地区の応急仮設住宅本町団地跡地に整備してきた「仕事と学び複合施設」が、令和5年1月16日(月)に完成しました。

住田町では、東日本大震災津波後間もなく93戸の仮設住宅を建設し、気仙地区の被災者を中心に受け入れました。ぬくもりある木造一戸建ての仮設住宅は、プレハブの長屋タイプが主流だった中で、「住田型」として注目を集めました。仮設住宅には最大で91世帯・260人が入居し、令和2年7月までに全ての方が恒久的な住宅に移られました。このうち17戸が建設された本町団地では、令和2年4月に全員が退去されたことを受け、町が跡地利活用方針を策定し、仮設住宅の部材を再利用して震災の記憶や記録を伝承するとともに、リモートワークやテレワークといった新たな働き方の受け皿となる施設の整備に取り組んできました。

「仕事と学び複合施設」の主な施設は、オンラインを活用したイベントや各種講座の開催等が可能なコワーキングスペースとなる共用棟のほか、オフィス棟、滞在体験棟があり、展示棟は、木造の住田型仮設住宅を再現し、内部に震災時の後方支援などの記録を展示し、後世に伝えていくこととしています。供用開始は、3月を予定しており、町では、施設を活用した町内外の人材交流による地域の活性化、関係人口・交流人口の拡大、東日本大震災津波の記憶・記録の伝承に大きな役割を果たすものと期待しています。

場所 岩手県気仙郡住田町世田米字本町地内

■問い合わせ 住田町企画財政課 ☎0192-46-2114

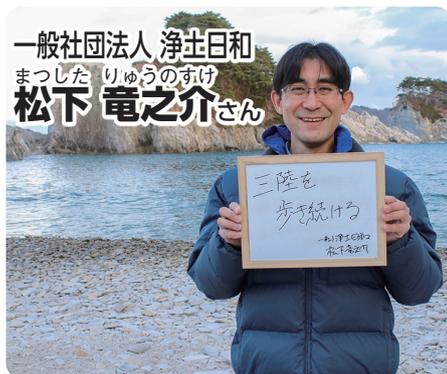


仕事と学び複合施設 (写真提供：住田町)



いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介します。第134回は松下竜之介さんをご紹介します。



～ 三陸を歩き続ける ～

PROFILE — 神奈川県出身。コールセンターや旅館勤務を経て、令和元年に宮古市地域おこし協力隊に採用され、移住促進・関係人口の創出に取り組んだ。令和2年から「みちのく潮風トレイル」を歩き始め、約1年で踏破。現在は「三陸ジオパーク」認定ガイド、移住コーディネーターのほか、様々な地域活動の支援で活躍。

みちのく潮風トレイル全踏破

地方移住に興味を持っていた松下竜之介さんは、都心での仕事から離れ、地域おこし協力隊として宮古市への移住を決めました。

協力隊在任中から、松下さんは青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸をつなぐ「みちのく潮風トレイル」の踏破に挑戦します。

「当時は県や自治体が『みちのく潮風トレイル』や『三陸ジオパーク』の周知を図ろうと取り組み始めた頃で、良いタイミングだと思いました。約1年かけて歩き、全踏破を達成しました。『みちのく潮風トレイル』は震災遺構をほぼ網羅していますので、報道では見たことがなかった景色やストーリーを知ることができました。また、私は歩くことそのものが好きで、地域の魅力を掘り起こす

手段として、歩くことに注目しています。自動車での移動ではなく、歩くスピードだからこそ見えるものがあると思います」と話します。

オール三陸での発信を大事に

「三陸ジオパーク」認定ガイドでもある松下さんは、現在、一般社団法人浄土日和に所属して「みちのく潮風トレイル」全踏破の経験を生かしながらガイドを務めるほか、三陸や宮古市の情報発信、地元菓子店の企画・営業をするなど、地域プロモーションに幅広く取り組んでいます。

「宮古市は都市感とローカル感が絶妙で、面白いまちだと感じています。これからは、宮古市だけではなくオール三陸の考え方で、縦のネットワークづくりを大事にしていきたいです」と語ります。

岩手県の被害状況

令和4年12月31日現在

- 人的被害 死者：5,145人(余震、震災関連死を含む)
行方不明者：1,110人
- 建物被害(住家のみ、全半壊)26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和4年12月31日現在

- 義援金受付状況 約188億3,548万円(98,963件)
- 寄附金受付状況 約204億9,608万円(17,776件)
- いわての学び希望基金(*)受付状況 約105億7,106万円(27,242件)
※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより 第188号

令和5年1月31日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・校正／永代印刷株式会社